

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04393

研究課題名(和文)アイヌの子ども歌の教材化とその鑑賞教材(DVD)の作成

研究課題名(英文) Making teaching materials of child's song in Ainu and making its DVD to Enjoyment

研究代表者

石田 久大 (Ishida, Hisao)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30193329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：この研究の目的は、アイヌのこどもの歌の教材化である。その対象となるのは、幼稚園と小学校の子どもたちである。旭川市近文には、沢山の伝統的なアイヌの歌が伝わっている。この中から、幼稚園のためには、体力比べ遊び「へべへべへろ」、舟遊び「ホーチップ」を取り上げ、小学校には早口言葉「サマイクルの犬」、アイヌの輪唱「エムシカネ」を教材化した。また、教師のためにアイヌ文化や近文のアイヌの歴史などを、DVD解説書に掲載した。それらはDVDに収録し、道内の図書館に広く配布した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to make teaching materials of a song in Ainu. The targets of teaching materials are a kindergarten and an elementary school children. A lot of traditional songs in Ainu are transmitted to Asahikawa-cikabumi. As a teaching materials for a kindergarten, physical strength comparison play "hebehebehero" and boating play "ho chip" are selected. Tongue twister in Ainu "Samaykl's dogs" and canon song "emusi kane hoppl" are selected as teaching materials of an elementary school. And we made an accessory manual of a DVD about Ainu culture and history in cikabumi-Ainu for a teacher of an elementary school. Those made DVD are distributed to many libraries in Hokkaido.

研究分野：声楽 ドイツ歌曲

キーワード：アイヌ アイヌ歌謡 教材化 旭川近文 遊び

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、平成 22 年度から開始され平成 24 年度に最終年を向かえた科学研究費、研究種目名 基盤研究(C) 研究課題名、「伝統的な歌唱法を生かした、小中学校音楽科授業のためのアイヌ歌謡の教材化」の継続的な研究である。

(2) アイヌ歌謡を中学校音楽教科の教材化する試みは、これまでに、札幌市内の中学校で、座り歌と踊り歌の教材化を試み、論文としている例も見受けられる。しかしながら、幼児教育を含む初等教育でのアイヌの歌を教材として扱っている例は少ない。

(3) 北海道においては、地域理解として先住民族であるアイヌ文化について、幼児期から継続的に公教育のなかで指導し理解させてゆくことが求められている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、道内の幼稚園児から小学校低学年の子ども達に、アイヌ文化が北海道の先人達の文化であることと、その価値の重要性について早い時期から認識してもらうことにあり、そのため本教材では、アイヌの子ども歌(あそび歌)に焦点を当てそれらを教材化し、保育現場や小学校で活用できる鑑賞用DVDを作成することである。

また、成果物となる「近文に伝わるアイヌのあそび歌」では、類似したものが道内各地にどのように存在しているかについても調査することである。

### 3. 研究の方法

教材としてのDVDの内容を充実するために、以下の作業を行った。

(1) 旭川市近文には、どのようなアイヌの子ども歌や遊び歌が伝承されているか。アイヌ給与地とし

て旭川・近文地区が定められて後、石狩川流域のアイヌの人たちの移住とともに子どもの歌(遊び歌)も近文に伝えられるようになった。その中には、新十津川などの旭川より下流域やあるいは士別などの上流域を含める石狩川沿いのアイヌの歌謡なども含まれている。それらの中から、子どもの歌の抽出を試みた。

(2) 北海道立図書館をはじめとする道内図書館には、アイヌ歌謡の古い録音などが相当数収蔵されている。その中から「アイヌの子ども歌」を中心に掘り起こす作業を行った。しかし、子どもの歌として収録されている録音はほとんど見当たらなかった。このことから、本研究では、アイヌの子ども歌がなぜ少ないのかについても推考した。

(3) 附属幼稚園・小学校での実践として、掘り起こしたアイヌの歌や遊びは、附属幼稚園と附属小学校の低学年の子ども達に実際に歌ってもらい、教材化について吟味した。この模様は、成果物のDVDの中に、アイヌのあそび歌をセッションとして行った場面が、実践例として収録されている。

(4) 教材化のための楽譜おこしとして、上記の(1)と(2)で収集した歌の中から、初等教育に使用できる曲を抽出し、幼稚園現場あるいは小学校学校教育の現場で使用できる状態に譜面化した。このことにより、指導に当たる教師は、アイヌ音楽をより一般化された形で指導することが可能になり、教育現場の教材として有効になると考えられる。譜面化した曲数はそれほど多くはなく、また早口言葉などは、言葉を掲載するにとどまったが、平成 29 年度の段階での記譜として、将来には意味を持ってくるものと考えられる。

(5) 「新しいアイヌ語による子どもの歌」の作成。石狩川筋のアイヌ語による詩を、研究協力者の太田満氏に作詩を依頼し、作曲をこれまでアイヌの話をテーマとした音楽劇作成において研究協力者として参加してきた二橋潤一氏に依頼した。この

DVDでは、2つの子どもの歌が創作された。これらには合唱曲も含まれており、「アイヌ語による新しい子どもの歌」として別刷りの楽譜として作成した。

(6)解説書の作成。アイヌの子ども歌(遊び歌)について、歌い方や遊び方を説明するとともに、類似した曲の道内の分布など調査した内容の中で、指導に必要と思われる範囲で掲載した。しかし道内の類似した歌の情報は既に昭和30年代のものであり、現在その伝播の経緯を調べることは、本研究の本来の目的とするところではないので、文献などの調査による紹介程度の内容にとどめた。

(7)近文の年表の作成。旧近文地区は(近文地区とは旧近文原野の部分を目指す。現在はいくつかの町名にわっている)現在閑静な住宅街になっているが、かつて近文給与地問題は全国的に知られた出来事であった。明治33年から昭和7年までに3度の紛擾が含み、長く続いた土地をめぐる長い運動の歴史について、見やすい年表として、教師の活用しやすいものを作成する。

#### 4. 研究成果

今回の研究では、幼児と小学校低学年を対象としたDVDを企画し作成した。DVDは2枚組で内容的に実践編と観賞編とからなる。収録内容はアイヌ文化に抵抗なく導入でき、アイヌの子ども歌(あそび歌)を、DVDを観ながら実際に歌ったり遊んだり出来るように制作した。歌の収集地域については、アイヌ語の文化圏がそれぞれ異なっているため、主に旭川市と石狩川流域を中心に調査を行った。

本研究の成果物であるDVDは、「幼児教育を含む学校音楽教育全体を通じた、アイヌ文化理解にあたっての導入版」といえ、そこには地域学としての歴史観や政治・文学などあらゆる側面からの視座が含まれていると云える。アイヌ歌謡研究

はこれまで民俗学あるいは民族音楽の領域にとどまっておらず、音楽教育学的な視点からの一般的なテーマとして取り上げられることは、それほど多くはなかった。

アイヌ民族が北海道の先住民族として認知された現時点において、改めて我が国の伝統音楽の一つとして捉えるべき領域である。特に北海道においては幼児教育の段階からアイヌの子ども歌などを通じ、アイヌ文化の教材化を図り、アイヌ文化への理解ならびにその周辺を形づくってきた地域文化ならびに歴史の理解を促してゆくことは時代の要請であるとも考えることができる。

本研究の独創的な部分としては、研究の中心テーマを、アイヌ文化のなかの歌謡という領域の子ども歌に限定し、それも地域を旭川市近文というさらに限定された地域に意図的に絞った。しかしこのことは、アイヌ文化理解にとって狭隘な内容となるのではなく、アイヌの子ども歌の理解から歌謡全体の理解へとつながり、宗教観を含めるアイヌ文化全体の理解へと発展することを狙っている。また同様に、地域の身近な歴史の理解が、北海道の歴史理解へと繋がり、それは現在学校教育で行われている歴史教育の中でのアイヌの歴史文化の位置づけを子ども達自身が認識できることを期待し、さらに子どもの成長過程において、アイヌ文化への理解と深化へと繋がることをねらった。

上述のために、成果物のDVDでは園児達あるいは小学校低学年の子ども達が、DVDを鑑賞しながら、身近な地域のアイヌの子ども歌(遊び歌)を実際に歌ったり遊んだり出来るところが特徴である。さらに、幼児教育や初等教育の現場で、先生達にアイヌ歌謡を理解してもらうための簡素化された楽譜の作成にある。口碑伝承音楽を楽譜に表すことの是非は存在するが、楽譜化により一般化された歌は異文化理解としてより広がりを見出

せる可能性を含んでいると思われる。また、教師側にとってもアイヌ文化・歴史については、十分に理解されていない場合も多く、解説書では旭川近文を中心とする出来事などを学べるように年表などを挿入した。

## 5. 主な発表論文等

〔その他〕(計4件)

DVD「近文に伝わるアイヌのあそび歌」

2枚組 制作 北海道教育大学旭川校芸

術・保健体育教育専攻音楽分野石田久大

杉江光 2018年

DVD解説書 22頁 北海道教育大学旭

川校 芸術・保健体育教育専攻音楽分野 石

田久大 2018年

楽譜「アイヌ語による新しい子どもの歌」

楽譜(A4判・縮小版) 太田満作詩 二

橋潤一作曲 石田久大解説 杉江光制作

北海道教育大学旭川校 芸術・保健体育教育

専攻音楽分野 2018年

科学研究費報告書「アイヌの子どもの歌

の教示化とその鑑賞教材(DVD)作成」

石田久大 杉江光 40頁 北海道教育大

学旭川校 芸術・保健体育教育専攻音楽分野

2018年

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

石田 久大 (ISHIDA Hisao)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30193329

### (2)研究分担者

杉江 光 (SUGIE Ko)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：40271720

### (3)研究協力者

川村 久恵 (KAWAMURA Hisae)

川村カネトアイヌ記念館副館長

太田 満 (OTA Mituru)

北海道教育大学旭川校非常勤講師